

社長ごあいさつ

「環境の世紀」と呼ばれる21世紀は「循環型社会の実現」が世界の目標となっています。全ての国や企業、そして市民はそのために何ができるかを問われ、それぞれが果たすべき責任を自ら考えて実行する段階に来ています。

荏原は、地球環境保全に寄与する優れた技術と最良のサービスを提供することを経営理念に掲げ、循環型社会構築に貢献する様々な環境保全技術の開発に取り組んでいます。

2001年度は特に、廃棄物の再資源化技術と新エネルギー開発の分野で大きな成果をあげることができました。

廃プラスチックをアンモニアなどの化学工業原料にリサイクルできる日本初のケミカルリサイクルシステム『加圧二段ガス化システム』が実用化に成功し、21世紀の地球環境保全と持続的な発展に貢献する技術として高く評価され、数多くの栄誉ある賞をいただきました。新エネルギー開発では、電解質に高分子膜を使った固体高分子形燃料電池が1kWの実証テスト機の中で世界トップクラスの高効率を達成し、家庭用燃料電池の実用化に向けて大きく前進しました。現在2004年の商用化に向けて準備を進めています。

さらに、日本一の風力発電実績を持つ荏原は、2010年に3,000MWの発電量を目指す日本の風力発電構想にも大きく貢献しています。

また、風水力機械や半導体製造装置の分野でも省資源・省エネルギー型製品や化学物質の無害化対策製品を開発しており、環境保全に積極的に取り組む多くのお客様から好評を得ています。

一方、環境の荏原として皆さまの高い期待にそえるよう社内体制の改善や強化にも全社をあげて取り組んでいます。

2000年度に経営品質向上のための全社活動「レスポンシブル・アクション・プログラム」を発足しました。活動の一つは「リスク・マネジメント・パネル」の設置で、企業活動遂行上のリスクを分析・評価し、これを最小化することを目的としています。

もう一つは「G-Oneプログラム」という名称の小集団活動で、経営の様々な面での質を向上させるために全社員が参加してそれぞれが抱える事業課題を抽出し、解決策を決定し、継続的な解決を図ります。何れも私自身が議長として積極的に関与し、2001年度から実行段階に入りました。荏原の環境経営の改善もこの活動の一部となりうると考えています。環境リスクはそれ単独で存在するものではありませんし、コストダウンや業務効率の改善は省資源、省エネルギーにつながりますので、環境リスクの最小化と環境マネジメントシステムの継続的な改善をレスポンシブル・アクション・プログラムと連携しながら効果的に進めて参ります。

国内・海外の関係会社の環境マネジメントに対しては、荏原の環境管理基準を基に組織体制の確立や環境マネジメントシステムの構築、運営を推進しています。

2001年度末までに日本国内の関係会社3社がISO14001の認証を取得し、2002年度以降も認証取得する会社が増える予定です。

技術とサービスによって地球環境保全に貢献することを荏原グループ共通の理念として、各社それぞれが特徴を生かして自発的に環境問題に取り組みます。

産業界や市民生活の様々な側面ごとに環境への負荷原因をとらえ、地域や社会全体で資源を循環させる環境技術開発や社会システム作りが求められています。この要請に応えることが環境調和型総合エンジニアリング企業・荏原の使命と考え、事業活動を展開いたします。



(株)荏原製作所 代表取締役社長

依田 正徳